



時間

群馬大学の森先生からバトンを引き継ぎました熊本大学の大平です。森先生とは、私がアメリカのテキサス大学アーリントン校でポスドクをしているときに先生が留学してこられ、そのときからの付き合いです。アメリカでは、連休に旅行に行ったり、また、週末には、森先生のお宅で奥さんの手料理で杯を交わしながら、夜な夜な研究や夢について語り合ったりしていましたことを懐かしく思います。懐かしく思うといえば、最近、月日のたつのがとても早く感じられるようになってきました。たとえば、つい最近の出来事も昔のことのように感じたり、まだまだ先だと思っていたこのエッセイの締め切りも何を書こうか迷っているうちにあっという間に締め切りになっていたり…。今も、昔も1日は24時間、1年は365日と同じはずなのになぜでしょう。

このようなことを考える人は昔からいて、「光陰矢の如し」という故事で月日がたつのは早いという戒めがあります。また、年をとると月日がたつのが早くなることについては、ある本では、「時間の経過は川の流れであり、人はその横を歩いている。人は年をとると歩くのが遅くなるので、川の流れ、すなわち時間の流れが速く感じられるのだ」という哲学的な解説がなされていましたし、10歳にとっての1年の長さは10分の1、30歳にとっての1年の長さは30分の1と年齢を分母に考えるジャンネーの法則なるものもあるそうです。でも、やはり時間の経過はその時間をその人がどう感じるかによる場所が大きいのではないのでしょうか。学会や古くからの友人が尋ねてきたなど、普段なかなか会えない方々と話したり飲んだりしていると時間はあっという間に過ぎていきます。また、集中して研究に取り組んでいるとき、授業をしているときもまたしかりです（学生は授業の時間は長いと感じているかもしれませんが…）。要するに、まだまだ伝えたいことややりたいこと、やらなければならないことがあるときに時の流れを早く感じるということでしょうか。逆に言えば、時間の経過を早く感じるということは、主体的であったり人から必要とされていたりということなのかもしれません。かなりポジティブな考え方もかもしれませんが…。

話は変わりますが、最近、パソコンを買い換えました。「わさもん」（熊本の方言で新しい物が好きな人のこと。熊本の県民性を表すそうです）である私は、今まで

だいたい2年に1度のペースで買い換えています（これまでの古いパソコンはすべて測定用として現役で頑張っています）。パソコンを買い換える→スペックの高いパソコンが手に入る→処理が早くなると考えると、このことは時間を買ったと言えるかもしれません。ただし、私の仕事のスピードが律速であれば、こうは言えませんが…。このように考えると、高速道路を使ったり、電車ではなく飛行機を使ったり、時間を買うということはなにげなく日常的に行っていると言えます。しかし、買うことのできる時間はごくわずかで、節約によって得られる時間のほうがはるかに大きい気がします。かく言う私は、時間を上手に使っているかということ、まったくそういうわけではなく、休み明けには、「あーあ、休みが終わっちゃった。」と悔やんでいる口です。いつも時間がなくなって切羽詰まってしまう。なかなか計画的な仕事をするのは難しいです。

今日（執筆時）は、今から学生時代の親友たちと久しぶりに飲みに行きます。たまにしか会えなくなった今でも共に学び、バイトに励んでいた時間というのはもう変わることなく、今でも思い出して笑ったり、なつかしがったりすることができます。そして、互いに会うことのできなかつた時間を共有し、次に会うまでの時間を頑張るための励みにしていきたいと思います。もう変わることのない過去の時間、これからどうなるかわからない未来の時間、どちらも大切にしたいものです。

ところで、分析化学において時間は、保持時間や反応時間など定性や定量において本質的な役割を果たしたり、測定時間を短くすることが求められたりします。ということは、分析化学者は時間を操っているということができるかもしれません。目で見ることのできないものを追いかけて、時間をも操る分析化学の発展にこれからもしていきたいと思います。

今回は、マレーシアで行われた ASIANALYSIS X を通じて知り合いました山形大学の水口仁志先生にお願いいたしました。年会のポスターセッションを担当させていただき中にもかかわらず、私からの執筆依頼に即、快諾いただきましたことに、この場を借りまして改めて感謝いたします。

〔熊本大学大学院自然科学研究科 大平慎一〕